

第 1 号議案：2024 年度 活動報告

2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

はじめに

2024 年度は、国際圧入学会（IPA）にとって、圧入に関する国際会議（ICPE）を初めて海外で開催した大きな節目の年であった。「第三回 圧入工学に関する国際会議（ICPE2024）」はシンガポールで開催され、成功裏に終了した。同会議は、圧入工学の進展に寄与しただけでなく、国際的なネットワークの拡充と学会の知名度向上にも大きく貢献した。

また、この会議とあわせて、各委員会では、研究成果、技術ガイドライン、圧入技術関連情報など、圧入工学に関する知見や情報への国際的なアクセス向上を図る多様な取り組みを積極的に進めてきた。こうした取り組みは、持続可能な建設手法の推進や、圧入工学の有効性とグローバルな普及を後押しするうえで、極めて重要な役割を果たしている。

本報告書は、これらの取り組みとその成果を概説し、圧入工学の革新を先導するという当学会の揺るぎない決意を改めて示すものである。

1. 研究委員会

研究委員会では、「研究活動の拡大」、「事例・データの収集」、「圧入技術の普及」の 3 つの活動に重点を置いて取り組んだ。運営委員会の委員も交えた議論を通じて、研究活動の活性化と充実を図った。その中で、学术界および産業界の双方のニーズに応えつつ、IPA が現在進めている取り組みに関連する新たな研究テーマの特定に注力した。

A) 技術委員会

3 つの技術委員会、TC4、TC5、TC6 が 2024 年度も活動を継続した。

a. 技術委員会 TC4

テーマ：圧入された鋼矢板および回転切削圧入杭の鉛直支持力特性と施工管理方法

活 動：現在、活動は停止中である。2025 年度中に、活動再開後のスケジュールおよび内容について提案を行う予定である。

b. 技術委員会 TC5

テーマ：オペレーターの技量と経験が圧入工法の施工性に及ぼす影響

活 動：圧入データの収集に遅れが生じており、活動計画は少なくとも 1 年間延長する必要がある。委員会ではこれまでに約 200 件の圧入データを圧入データ管理システムにより取得しており、現在その分析を進めている。2025 年度中の活動完了を予定している。

c. 技術委員会 TC6 ※中国

テーマ：中国における圧入技術の実態調査と課題の抽出

活動：中国語版「圧入ハンドブック」の改定作業を下記のスケジュールで進めた。

2024 年 6 月～2024 年 12 月	執筆・翻訳
2025 年 1 月～2025 年 4 月	編集
2025 年 5 月～2025 年 9 月	最終査読
～2025 年末	出版予定

このほか、研究委員会では本年度、新たな研究テーマの模索にも取り組んできた。

2024 年 7 月の委員会会議では、株式会社技研製作所が主導する可能性のあるテーマに焦点を当てることが議論され、石原理事が研究委員会にテーマ案を提示することが確認された。

2024 年度末までに、Gavin 委員長の主導のもと、石原理事によって複数の候補テーマの収集と整理が進められ、その一部は 2025 年度活動計画において、検討対象として反映された。

2025 年度においては、これらのテーマについて研究委員会においてさらに検討を深め、必要に応じて新たな技術委員会の設置を含めた展開手法についても議論を進める予定である。

B) ケースヒストリー：Case History Volume 3（圧入工法適用事例集）

圧入工法の多様な適用事例をまとめた「Case History Volume 3」の発刊に向けた準備を、2025 年度以降に開始する予定である。

C) 図書館機能（蔵書）

様々な分野の書籍を継続して収集中である。 [IPA ウェブサイト「図書館」参照](#)
2024 年度は、32 冊（海外書籍 10 冊、日本語書籍 22 冊）を新たに配架し、蔵書総数は 1,056 冊となった。

D) 圧入工学セミナー

2024 年 10 月 9 日、石川県で圧入工学セミナーを開催した。本セミナーは、同年 1 月 1 日に発生した能登半島地震を受け、「防災・減災」をテーマに実施された。圧入工法を活用した災害からの復旧に有効な対策事例のほか、防災・減災に資する各種技術や施策が紹介された。延べ 120 名が参加し、防災・復旧に向けた実践的かつ現実的な対策について議論が交わされた。

([IPA Newsletter Vol.10, Issue 1](#) で報告)

2. 事業委員会

事業委員会では、圧入技術の普及に向けた書籍の出版、セミナー、国際会議の開催など様々な活動に継続的に取り組んだ。

A) Press-in Handbook（圧入ハンドブック）の多言語化

2025 年 3 月にアラビア語版の圧入ハンドブックを発行した。

圧入ハンドブックは、これまでに、以下の 12 言語版を発行済みである。

- | | | | |
|-----------|---------------|-----------|--------------|
| 1) 日本語 | : 2015 年 6 月 | 7) スペイン語 | : 2022 年 3 月 |
| 2) 英語 | : 2016 年 12 月 | 8) フランス語 | : 2022 年 3 月 |
| 3) 中国語 | : 2019 年 10 月 | 9) ベトナム語 | : 2022 年 5 月 |
| 4) ロシア語 | : 2021 年 10 月 | 10) ドイツ語 | : 2022 年 8 月 |
| 5) タイ語 | : 2021 年 11 月 | 11) 韓国語 | : 2023 年 9 月 |
| 6) ポルトガル語 | : 2021 年 12 月 | 12) アラビア語 | : 2025 年 3 月 |

中国語版については、以下のスケジュールで改訂作業を継続中である。

2024 年 6 月～2024 年 12 月	執筆・翻訳
2025 年 1 月～2025 年 4 月	編集
2025 年 5 月～2025 年 9 月	最終査読
～2025 年末	出版

B) 海外圧入セミナー

圧入ハンドブックを基軸とした圧入工法の普及を目的として、現在、下記 2 か所でのセミナー開催が計画されている。

a. チュニジア

Bouassida 理事が中心となって企画し、2025 年 4 月 4 日にチュニジアのハマメットでの 1 日セミナーの開催に向け準備を進めてきた。2024 年 10 月以降、セミナー案内チラシおよびスポンサー募集資料が関係者に配布され、2024 年度末時点で準備は最終段階に入った。

本セミナーは、Tunisian Engineers Order（チュニジア技術者会）、Geotechnical Engineering and GeoRisk Laboratory（地盤工学および地盤リスク研究所）、SIMPRO Tunisia（チュニジアの建設技術系企業）、国際地盤工学会（ISSMGE）、国際協力機構（JICA）などの主要支援団体の協力を得て実施される予定である。

（[セミナー案内チラシは IPA ウェブサイトに掲載](#)）

b. インドネシア

本セミナーは、2019 年に開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により直前で延期となった。その後、インドネシア側のタスクフォースである「Himpunan Ahli Teknik Tanah Indonesia（HATTI／インドネシア地盤工学協会）」および「Himpunan Ahli Konstruksi Indonesia（HAKI／インドネシア建設技術者協会）」と連携し、再開計画を進めている。

当初は 2025 年度内での 1 日セミナーの開催を予定していたが、インドネシアにおける 2025 年度インフラ事業予算が約 75%削減されたことを受け、インドネシア側から 2026 年 4 月への開催延期が提案された。現在、IPA 事務局とインドネシア側タスクフォースとの間で、日程および詳細について協議を継続中である。

C) 圧入工法仕様書

仕様書は全 7 章のうち第 1 章から第 4 章までの約 75% (200 ページ中 150 ページ) が完成した。これらは、編集委員（日下部専務理事、寺師氏、McNamara 副会長、Goh 監事、石原理事、野崎氏）に査読確認のために送付された。残りの第 5 章から第 7 章については、現在作成中であり、2025 年中頃までに草案が完成する予定である。

D) 圧入技術に関する用語集

2024 年 7 月にエクセル形式の用語データベースを IPA ウェブサイトに掲載した。用語データベースは、以下の URL からダウンロード可能である：

<https://www.press-in.org/ja/publication/index/1>

現時点では、英語および日本語による関連用語が対訳表形式で収録されている。対象言語の拡充に向けた第一歩として、同対訳表へのフランス語での用語追加整備を進めており、2025 年度の公開を予定している。

E) 第三回 圧入工学に関する国際会議（ICPE2024）

2024 年 7 月 3 日から 5 日にかけてシンガポールで ICPE2024 を開催した。「持続可能なインフラ建設の実現に向けた気候変動対策としての圧入工法の優位性」を会議のテーマとして、総勢 208 名が参加し、67 編の論文が発表された。本会議の詳細は、2024 年 12 月発行の IPA ニュースレターにまとめられている。

[\(IPA Newsletter Vol.9, Issue 4 で報告\)](#)

F) 圧入技術専門書（日本語）

日下部専務理事を中心に 8 名の委員により執筆が進められ、原稿が完成に近づいている。本書は、圧入工法の基礎から実用技術、主要なインフラ構造物への適用事例までを網羅する構成となっており、2025 年度前半の刊行を予定している。

3. 広報委員会

広報委員会は、計 2 回の委員会会議を開催し、下記について議論を行った。

A) IPA ニュースレターの定期配信

IPA ニュースレターは 2024 年度も下記のとおり 3 か月ごとに定期配信を行った。

- ・ [Vol.9, Issue 2 2024 年 6 月](#)
- ・ [Vol.9, Issue 3 2024 年 9 月](#)
- ・ [Vol.9, Issue 4 2024 年 12 月](#) : ICPE2024 特集号
- ・ [Vol.10, Issue 1 2025 年 3 月](#) : Newsletter 創刊 10 周年記念号

2024 年度中に、編集委員会では計 5 回のミーティングを開催した。

IPA ニュースレターは、2024 年 12 月号より、フォーマットを従来の PDF 形式から Web ページ形式に移行した。この変更により、スマートフォンでの閲覧や、ブラウザの翻訳機能を活用した多言語への翻訳も容易になった。

B) IPA ブックレット 4 : Advanced Technology (先端技術)

これまでの IPA ニュースレターに掲載された先端技術に関する特別寄稿をまとめた小冊子「ブックレット 4 : 先端技術編」は、当初 2025 年 3 月の発行を予定していたが、準備の遅れにより、2025 年度内の発行を予定している。著者からの掲載許諾はすべて取得済みであり、現在は編集段階にある。

C) LinkedIn アカウントの開設

2024 年 10 月に学会の LinkedIn 公式アカウントを開設し、専門家ネットワークの拡大と、ソーシャルメディアの機能を活用したフォロワーとの交流の活性化を目指している。アカウントでは、イベントの告知や過去の IPA ニュースレターのハイライトなどを毎週発信しており、これまでに 174 名のフォロワーを獲得している。この取り組みにより、専門家コミュニティ内での認知度と交流の向上を図っている。

LinkedIn アカウント: <https://www.linkedin.com/company/international-press-in-association/>

4. 表彰委員会

表彰委員会では、圧入工学への優れた貢献を顕彰する IPA 表彰制度について、選考を適切に実施し、ICPE2024 において授賞を行った。また、国際的な圧入工学コミュニティへの継続的な影響力を維持するため、表彰制度の認知度と注目度の向上に向けた施策の検討に取り組んだ。2024 年度の主な成果と取り組みを下記に示す。

A) ICPE2024 における表彰

ICPE2024 では、圧入工学の発展に大きく貢献した個人およびプロジェクトに対し、下記の賞を授与した。

- | | | |
|---------------------------------|-------------------|--------|
| 1. Outstanding project award | 傑出した建設プロジェクトの表彰 | : 1 件 |
| 2. Innovative technology award | 革新的な技術開発に対する表彰 | : 対象なし |
| 3. Distinguished research award | 顕著な研究成果に対する表彰 | : 3 名 |
| 4. Life-long Contribution Award | 多年にわたる貢献に対する顕彰 | : 2 名 |
| 5. Early Career Engineer Award | 初期キャリアエンジニアに対する表彰 | : 2 名 |
| 6. The ICPE best paper award | ICPE 優秀論文の表彰 | |
| • Best Research Papers | 研究論文に対する表彰 | : 4 名 |
| • Best Project Papers | プロジェクト論文に対する表彰 | : 3 名 |

ICPE 優秀論文の表彰においては、表彰委員会と ICPE2024 組織委員会が連携し、優れた研究論文およびプロジェクト論文が正当に評価されるよう選考を行った。

B) IPA 表彰制度の広報計画

IPA 表彰制度の認知度と注目度を高めるため、広報委員会と連携し、IPA ニュースレターやその他の媒体を通じた広報活動を計画した。これらの取り組みは、受賞者やその研究、受賞プロジェクトをより幅広い層に紹介することを目的とするものである。さらに、将来の表彰に向けた外部への働きかけや参加促進のための方策についても検討を行い、今後数年間のさらなる広報活動の基盤を整えた。

([広報活動の計画は、IPA Newsletter Vol.10, Issue 1 で報告](#))

5. 総務委員会

総務委員会は、学会の日常的な運営の管理を担うとともに、学会活動が円滑に行われるよう他の常設委員会と調整を行った。下記に 2024 年度の成果と学会のネットワークおよび会員の拡大に向けた取り組みを示す。

A) ICPE2024 の成功

ICPE2024 組織委員会および IPA の各常設委員会の尽力により、第三回 圧入工学に関する国際会議（ICPE2024）は、世界各国から 200 名を超える参加者を集め、重要な節目となる成功を収めた。今回の国際会議は日本国外で初めての開催となり、学会の国際的な存在感を大きく高める機会となった。また、関連する専門家、著者、査読者の協力により、基調講演 2 件と査読付き論文 64 編を収録した論文集が発行され、圧入工学分野の研究の進展と知見の蓄積に貢献した。

[\(IPA Newsletter Vol.9, Issue 4 で報告\)](#)

B) 産業界の連携会合の開催

ICPE2024 の開催にあわせ、同会議のスポンサー企業 15 社を交えた非公式な意見交換会を実施し、実務者の視点を交えた自由な議論が行われた。本会合では、一般社団法人全国圧入協会が日本で主導する取り組み事例を参考に、圧入機のオペレーターの育成および認証制度に焦点が当てられた。あわせて、同様の業界団体を国際的に整備する必要性についても議論された。これらの議論は、業界内の連携の構築と強化において重要な役割を果たすものであり、圧入業界の持続可能な発展に向けた取り組みとなった。

C) 会員拡大に向けた取り組み

ICPE2024 の開催に際し、会員基盤の拡大を目的として学生の参加を促進するために複数の施策を実施した。学生の参加は期待を下回る結果となったが、会員拡充に対する取り組みは今後も継続していく。

若手会員促進の一環として、日本国内において、土木工学を学ぶ学生を対象とした圧入施工現場の見学会を開催した。本見学会は、圧入工法の実際の適用現場を体感する機会を提供することで、土木工学および圧入技術が社会に果たす役割への理解と関心を深めることを目的とするものである。今後は、各地の IPA 現地事務局との連携のもと、特に土木工学教育が拡大しつつある地域を中心に、同様の機会提供を広げていく予定である。[\(IPA Newsletter Vol.10 Issue 1 で報告\)](#)

また、広報委員会が、会員間の情報共有の促進と交流の活性化を目的として、「LinkedIn」を活用した新たな情報発信の取り組みを開始した。総務委員会においても本取り組みを高く評価しており、会員の結びつきを深め、組織全体の連携を強化するうえで重要な役割を果たすものと位置づけている。

6. その他

A) IPA 総会

2024 年 5 月 13 日から 24 日までの 12 日間の期間で「2024 年度 IPA 通常総会」を開催し、2024～2025 年度の新理事、2023 年度の活動報告および収支報告、2024 年度の活動計画および予算案が承認された。[\(IPA Newsletter Vol.9 Issue 2 で報告\)](#)

B) IPA 理事会

- 2024 年 7 月 2 日、ICPE2024 の会期に合わせてシンガポールで対面式の理事会を開催し、理事 23 名、監事 1 名が出席した。2024～2025 年度の新会長、副会長、専務理事の他、5 つの常設委員会の委員長、副委員長、委員、ならびに事務局長の任命を含む人事に関する議案と、次年度の総会に向けて 2025～2026 年度の次期理事の推薦を行う推薦委員会の設置に関する議案等が全会一致で可決された。[\(詳細は IPA Newsletter Vol.9 Issue3 で報告\)](#)
- 2025 年 3 月 31 日から 4 月 4 日まで、E メール形式の理事会を開催した。理事 28 名、監事 2 名が参加し、2024 年度の活動報告・収支計算書、2025 年度の活動計画・予算の草案など、2025 年 5 月の通常総会への上程議案が賛成多数で可決された。承認手続きの過程で、活動計画案の一部記述に関する修正意見が寄せられ、最終版の文書には適切な修正が反映された。また、推薦委員会は 2025～2026 年度任期の理事・監事の候補者名簿を作成し、総会前に現理事に回覧し意見を求めた。

C) 運営委員会

運営委員会は会長、前会長、専務理事、常設委員会の代表者および事務局長で構成される。

- 2024 年 11 月 26 日にオンライン会議を開催し、中間会計報告を含め、各常設委員会の活動状況の確認、課題の共有、今後の対応方針について協議を行った。
- 2025 年 2 月 19 日にオンライン会議を開催。2024 年度の活動報告・収支計算書の草案、2025 年度の活動計画・予算の草案など、2025 年 3 月の理事会、および 2025 年 5 月の総会に提出される議案事項と関連資料の確認を行った。

D) 推薦委員会

推薦委員会は、2025～2026 年度任期の IPA 理事および監事の候補者を選定し、その候補者名簿を通常総会に提出するために設置された。候補者名簿を作成するために数回のメール会議を実施し、2025 年 5 月の総会の議案として最終決定した。名簿の精査のため、2025 年 3 月のメール理事会では理事からの意見を募った。

E) 会員数

2025 年 3 月末（2024 年度末）時点での会員数

正会員	：	653 名	去年同期	699 名	（－46 名）
学生会員	：	82 名	去年同期	66 名	（＋16 名）
法人会員	：	47 社	去年同期	49 社	（－ 2 社）

第 2 号議案：2024 年度収支計算書

2024年度 収支計算書

(2024.4.1～2025.3.31)

(単位:円)

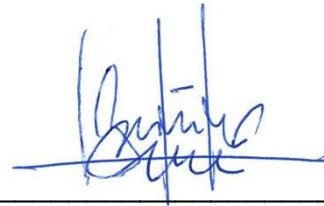
項目	2024年度予算	2024年度実績	備考
事業活動収支			
1 事業活動収入の部			
① 会費収入			
正会員(個人)年会費	7,000,000	6,460,000	
法人会員年会費	6,600,000	6,500,000	
② 寄付金収入			
寄付金	16,000,000	16,000,000	
③ その他収入			
書籍販売	1,000,000	570,000	圧入設計・施工指針 2020年版(第2刷) 等
国内セミナー	200,000	270,000	圧入工学セミナー参加費
海外セミナー	1,900,000	300,000	チュニジアセミナー参加費、スポンサー費
立替金	1,135,655	1,135,655	ICPE2024の論文投稿システム利用料等
雑収入	500	8,531	銀行利子等
事業活動収入計	33,836,155	31,244,186	
2 事業活動支出の部			
① 会議・セミナー関係			
国内セミナー	600,000	447,705	圧入工学セミナー開催費
海外セミナー	3,200,000	1,311,864	アフリカ、インドネシアセミナー開催費
② 出版関係			
Press-in Handbook	600,000	90,407	アラビア語版の編集、執筆費等
IPA Newsletter	240,000	157,150	翻訳、執筆費等
IPA ブックレット 4: 先端技術	300,000	0	
圧入専門書(日本語版)	3,000,000	0	
その他	0	103,400	
③ 研究・運営関連			
理事会・常設委員会	6,400,000	7,632,108	2024度と2025年度理事会開催費用(うち2025年度: 1,394,620円)
会長・事務局活動費			
会長活動費	1,000,000	474,510	
事務局活動費	600,000	128,083	
現地事務局活動費	800,000	128,464	
研究委員会(技術委員会)活動費	2,000,000	0	
圧入仕様書	200,000	0	
表彰関連	250,000	161,964	
図書費	600,000	547,692	書籍購入費等
④ 管理関連			
情報システム関連費	2,230,000	2,609,691	
印刷費用(書籍関連除く)	48,000	0	
郵送費(国内外)	180,000	50,644	
通信費	96,000	97,693	電話代
理事報酬	10,844,130	10,890,173	
賃借料	3,360,000	3,291,015	事務所家賃、複合機の賃借料等
契約外注費	1,675,000	1,641,204	税理士報酬等
支払手数料	300,000	219,010	銀行手数料等
事務用品費	260,000	173,895	
雑費	360,000	335,084	
事業活動支出計	39,143,130	30,491,756	
事業活動収支差額	-5,306,975	752,430	
前期繰越金額	14,731,269	14,731,269	
当期収支差額	-5,306,975	752,430	
次期繰越金額	9,424,294	15,483,699	

In our opinion, the above statement of accounts is presented fairly in all material respects.

監査の結果、重要な点において適正に表示しているものと認める。

Date: 25 April, 2025,

Auditor



Dr. Goh Teik Lim

Auditor



Mr. Tsuyoshi Tanouchi

【補足資料】収支計算書：第三回 圧入工学に関する国際会議（ICPE 2024）

参加者総数：208名（17か国・地域より参加）

（単位：円）

項目	金額（実績）	備考
収入の部		
参加登録料	4,119,000	
スポンサー収入	5,600,000	
寄付金	0	
助成金	0	
雑収入	3,523	為替差益および利息収入
収入の部 計	9,722,523	
支出の部		
会場関連費	5,051,041	会場費、ケータリング費用、バスチャーター費用など
招待関連費	863,548	航空券代、招待客の宿泊費
スポンサー関連費	562,795	備品レンタル費用
論文関連費	973,148	論文査読費用、印刷費用など
表彰関連費	155,628	
謝礼金	0	
人件費	0	
雑費	393,033	送料、銀行手数料、為替差損など
支出の部 計	7,999,193	
収支差額	1,723,330	
ICPE2021繰越金	394,255	銀行利息27円を含む
次回ICPEへの繰越収支差額	2,117,585	次回ICPEへの繰越金

第 3 号議案：2025 年度 活動計画

2025 年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日）

はじめに

国際圧入学会（IPA）は、第 19 期目を迎え、圧入工学の普及と発展に向けた国際的な取り組みを引き続き強化している。今年度は、チュニジアにおけるアフリカでは初めてとなる圧入工学セミナーの開催や、オランダでの第四回 圧入工学に関する国際会議（ICPE）の企画など、活動を一層拡充していく重要な年である。Gavin 会長のリーダーシップのもと、研究活動の活性化、国際ネットワークの拡大、そして会員の主体的な参画の強化に向けた取り組みを進めていく。

以下の本年度の活動計画には、産学官の連携強化、会員の積極的な参加促進、ならびにデジタルツールを活用した交流の深化を目指す常設委員会の取り組みが含まれている。我々は、業界が直面する変化の激しい課題に対応しつつ、圧入工学の国際的発展に向けた機会の最大化を図るべく、全力を尽くす所存である。

1. 研究委員会

研究委員会では、引き続き研究活動の拡充、ケースヒストリーおよび関連資料の収集、圧入工法の技術普及を推進していく。これらの取り組みは、知見の蓄積を図り、会員および広く土木工学分野の技術者との共有を目的とするものである。これらの活動が効果的かつ体系的に実施されるよう、研究委員会の委員長と各技術委員会の委員長との間で定期的に会議を開催する。

A) 技術委員会（Technical Committees）

技術委員会（TC4、TC5、TC6）は、2025 年度も以下のとおり活動を継続する。

a. 技術委員会 TC4

テーマ：圧入された鋼矢板および回転切削圧入杭の鉛直支持力特性と施工管理方法

活動：現在、活動は停止中である。2025 年度中に、活動再開後のスケジュールおよび内容について提案を行う予定である。

b. 技術委員会 TC5

テーマ：オペレーターの技量と経験が圧入工法の施工性に及ぼす影響

活動：圧入データの収集に遅れが生じており、活動計画は少なくとも 1 年間延長する必要がある。委員会ではこれまでに約 200 件の圧入データを圧入データ管理システムにより取得しており、現在、その分析を進めている。2025 年度中の活動完了を予定している。

c. 技術委員会 TC6

テーマ：中国における圧入技術の実態調査と課題の抽出

活動：中国語版「圧入ハンドブック」の改定を以下のスケジュールで進めている。

2024 年 6 月～2024 年 12 月	執筆・翻訳
2025 年 1 月～2025 年 4 月	編集
2025 年 5 月～2025 年 9 月	最終査読
～2025 年末	出版予定

新たな研究テーマと活動形態の検討

研究委員会では、今年度、技術委員会（TC）活動の枠組みの改善に取り組む予定である。具体的には、(a) 現行の TC 活動の枠組みの見直し、(b) 新たな TC の研究テーマおよび委員の選定に関するより客観的なプロセスの導入、(c) TC 活動をより効果的に運営する方法の導入、の 3 点を含むものである。

これらの課題 (a) (b) (c) に関する議論を促進し、研究の観点からの意見交換の機会を確保するため、研究委員会は小規模ワークショップ（小規模の意見交換の場）の開催を計画している。とくに課題 (b) に向けた準備として、2024 年 7 月に開催された研究委員会での議論を受けて、Gavin 委員長の協力のもと、株式会社技研製作所の石原博士（研究委員会副委員長）から、以下の研究テーマ案が提案された。

提案された研究テーマ案：

- 1) 回転切削圧入による継ぎ手を用いない鋼管杭井筒基礎の性能と設計手法
- 2) 圧入工法で構築される構造物のライフサイクルコスト（LCC）計算
（例：鋼管杭や鋼矢板で補強された締切工、二重鋼矢板壁で補強された堤防など）
- 3) 斜面上に構築される片持ち式壁の性能および設計手法
（硬質地盤への根入れを前提としないものを含む）
- 4) 圧入工法が海洋生物に与える影響

今後、その他の研究テーマが提案される可能性もある。

小規模ワークショップでは、これらの研究テーマについて提案者から詳細な説明があり、それぞれのテーマを新たな技術委員会の研究課題として扱う可能性について、議論が行われる予定である。

B) ケースヒストリー：Case History Volume 3（圧入工法適用事例集）

圧入工法の多様な適用事例を収めた「Case History Volume 3」の刊行に向けた作業を引き続き進めており、2025 年度以降の発行を目指している。

C) IPA ライブラリー（蔵書）

様々な分野の書籍を収集しており、その情報は学会ウェブサイトの「図書館」ページに掲載している。[IPA ウェブサイト「図書館」参照](#)

D) 圧入工学セミナー

日本国内において圧入工学セミナーの開催を計画している。セミナーのテーマ、日程、会場については、日本国内の圧入業界の主要な関係者と協議のうえ、有効性や市場が抱える課題、進行中の取り組み等を踏まえて決定する。

2. 事業委員会

事業委員会は圧入技術普及のため、引き続き出版活動や、セミナー・会議等の開催などの活動を行う。

A) Press-in Handbook（圧入ハンドブック）の多言語化

2025 年度中に「圧入ハンドブック」中国語版の改訂を行う予定である。

圧入ハンドブックは、これまでに、以下の 12 言語版を発行済みである。

1) 日本語	: 2015 年 6 月	7) スペイン語	: 2022 年 3 月
2) 英語	: 2016 年 12 月	8) フランス語	: 2022 年 3 月
3) 中国語	: 2019 年 10 月	9) ベトナム語	: 2022 年 5 月
4) ロシア語	: 2021 年 10 月	10) ドイツ語	: 2022 年 8 月
5) タイ語	: 2021 年 11 月	11) 韓国語	: 2023 年 9 月
6) ポルトガル語	: 2021 年 12 月	12) アラビア語	: 2025 年 3 月

中国語版の改訂は、以下のスケジュールで進行中である。

2024 年 6 月～2024 年 12 月	執筆・翻訳
2025 年 1 月～2025 年 4 月	編集
2025 年 5 月～2025 年 9 月	最終査読
～2025 年末	出版

B) 海外圧入セミナー

圧入ハンドブックを基軸とした圧入工法の普及を目的として、セミナーの開催と計画を進めている。現在の主な活動として、以下の 2 件が挙げられる。

a. チュニジア

2025 年 4 月 4 日にチュニジアで圧入セミナーを開催した。本セミナーは、Tunisian Engineers Order（チュニジア技術者会）、Geotechnical Engineering and GeoRisk Laboratory（地盤工学および地盤リスク研究所）、SIMPRO Tunisia（チュニジアの建設技術系企業）、国際地盤工学会（ISSMGE）、国際協力機構（JICA）の支援を受けて実施された。7 か国（チュニジア、エジプト、マダガスカル、イギリス、オランダ、ルクセンブルク、日本）から 55 名（うち学生 19 名）が参加した。

b. インドネシア

2019 年に新型コロナウイルス感染症の影響で延期となったセミナーの再開に向け、インドネシア側のタスクフォースである「Himpunan Ahli Teknik Tanah Indonesia（HATTI／インドネシア地盤工学協会）」および「Himpunan Ahli Konstruksi Indonesia（HAKI／インドネシア建設技術者協会）」と連携し、再開計画を進めている。当初は 2025 年度内の開催を計画していたが、インドネシアにおける 2025

年度のインフラ事業予算が約 75%削減されたことを受け、インドネシア側からは 2026 年 4 月への延期が提案された。スケジュールおよびその他の詳細について、インドネシア・タスクフォースとの間で協議中である。

C) 圧入工法仕様書

仕様書は全 7 章のうち第 1 章から第 4 章までの約 75% (200 ページ中 150 ページ) が完成し、現在、編集委員 (日下部専務理事、寺師氏、McNamara 副会長、Goh 監事、石原理事、野崎氏) によるレビューが行われている。残りの第 5 章から第 7 章については、現在執筆中であり、2025 年中頃までに草案が完成する予定である。

D) 圧入技術に関する用語集

Excel 形式の日英対訳の用語データベースが 2024 年 7 月に IPA ウェブサイトへ掲載され、以下の URL からダウンロード可能である：

<https://www.press-in.org/en/publication/index/1>

本データベースは、「圧入ハンドブック」の対応言語に沿って、今後さらなる多言語展開を図る予定である。対象言語の拡充に向けた第一歩として、現在同対訳表へのフランス語での用語追加整備を進めており、2025 年度の公開を予定している。

E) 第四回 圧入工学に関する国際会議 (ICPE)

次回、第四回 ICPE はオランダでの開催を予定している。開催時期は 2027 年または 2028 年が想定されており、2025 年度第 1 四半期中を目途に、開催テーマ、会場、組織委員会の体制などの重要事項とあわせて決定される見込みである。

F) 圧入技術専門書 (日本語)

本書は、2024 年度中に原稿がほぼ完成し、現在は編集作業の最終段階にある。日下部専務理事を中心に 8 名の委員によって編集されており、圧入工法の原理から実用技術、代表的なインフラ構造物への適用例までを包括的に解説している。出版社との調整のもと、2025 年度第 2 四半期以降の刊行を予定しており、当学会の使命のひとつである圧入工学に関する知見の普及に資する重要な 1 冊となる。

3. 広報委員会

広報委員会では、会員とのコミュニケーションおよび会員の主体的な参画の強化に引き続き注力し、IPA ニュースレターやブックレットシリーズの発行を継続するとともに、会員向けデジタルコンテンツの充実を図る。

A) IPA ニュースレター

IPA ニュースレター編集委員会は、引き続き四半期ごとに IPA ニュースレターを発行する予定である。また、これらの刊行物を「LinkedIn」と連携させ、情報の到達範囲と効果を拡大させることで、情報発信・交流機能のさらなる強化を目指す。

B) IPA ブックレット 4：最先端技術

これまでの IPA ニュースレターに掲載された先端技術に関する特別寄稿 (下表参照) を再編集した小冊子 (英文) の刊行準備を進めている。

本冊子は、圧入関連技術に関する知見を関係者間で継続的に共有することを目的としており、2025 年度内の完成・公開を目指している。

タイトル	著者
Innovative management system for infrastructure by utilization of 3D point cloud data based on GIS platform	Dr. Hiroshi Dobashi
Optimizing the design of foundations on soils reinforced by columns	Prof. Mounir Bouassida
Seismic response analysis of ground/geo-structures using geo-analysis integration code	Prof. Akira Asaoka Prof. Toshihiro Noda
Technology developments in Japanese construction industry	Dr. Kenichi Horikoshi
Paradigm shift of disaster prevention and mitigation by city scale simulation	Prof. Atsushi Iizuka
Smart pile, smart foundation and smart infrastructure?	Prof. Kenichi Soga
Redefining the way sustainable construction is delivered	Dr. Jignasha Panchal
Research projects at National Institute of Maritime, Port and Aviation Technology, Japan, for achieving carbon neutrality	Dr. Yoshiaki Kuriyama
The challenge to structural health monitoring of expressway embankment	Prof. Atsushi Yashima
Numerical simulation of penetration into ground	Prof. Yosuke Higo
Facing a Society with a Declining Population - Challenges and Opportunities for the Construction Industry -	Prof. Kazuyoshi Tateyama Prof. Tetsuo Yoshimoto

C) IPA ニュースレター掲載サイトのリニューアル

閲覧者の利便性と運用効率の向上を目的として、IPA ニュースレター掲載サイトの改善を計画している。編集作業や保守管理の効率化を図るとともに、IPA 関係者および編集委員会の双方のニーズに応える柔軟な運用基盤の整備を目指している。

4. 表彰委員会

ICPE2024 における表彰式の成功を踏まえ、表彰委員会では引き続き IPA 表彰制度のさらなる充実に取り組む。2025 年度は、表彰制度の認知度向上、国際的な評価の強化、受賞にふさわしい推薦のさらなる促進に重点を置く方針である。

A) IPA 表彰制度の認知度向上

2024 年度の企画検討を踏まえ、2025 年度は表彰委員会と広報委員会が連携し、IPA 表彰制度の認知度および評価の向上に向けた施策の実施を進めていく。主な取組は以下のとおりである。

1) 受賞者とその功績の紹介

- ・ IPA ニュースレターやウェブサイト等を通じた取材記事や特集の掲載。
- ・ 受賞対象となった研究・プロジェクト・技術についての紹介。

- 2) 受賞による長期的影響の把握と共有
 - ・過去の受賞者の受賞後の活動についてのフォローアップ調査を実施。
 - ・次回 ICPE で成果発表の場を設けることを検討。
- 3) 将来の推薦獲得強化に向けた活動
 - ・学术界、産業界のネットワークに向けた重点的な広報活動を実施。
(過去の受賞者にアンバサダーとしての活動を依頼、業界誌・学術誌への情報展開、SNS での発信強化等)
 - ・推薦を促すウェブコンテンツの充実 (受賞者の声や成功事例の掲載)。
 - ・IPA の各地域の現地事務局や関係機関と連携し、有望な推薦の増加を図る。

B) 国際的な認知度の向上と連携の強化

- 1) 国際的な連携の拡充
 - ・他の学術機関や業界団体との連携を構築し、IPA 表彰制度の信頼性と発信力の向上を図る。
 - ・これらの連携を通じて、より広範な地域からの推薦獲得を促進する。
- 2) 推薦プロセスの改善
 - ・過去の応募者からのフィードバックも取り入れ、推薦要項や資料の明確さと使いやすさを高める。
 - ・推薦書類や提出システムの最適化を図り、よりスムーズで利用者に配慮した運用体制を整備する。
- 3) 第四回 ICPE での表彰に向けた早期準備
 - ・より有力で競争力のある推薦候補の確保に向け、早期から広報活動を行う。
 - ・IPA の現地事務局と連携し、より多くの国や地域からの推薦を集める。

5. 総務委員会

2024 年度に築いた基盤をもとに、総務委員会では、運営戦略および連携体制のさらなる強化に取り組む。2025 年度は、これまでの課題への対応の他、新たな機会の活用を通じて、学会の国際的ネットワークの拡大と会員の学会活動への参画促進を目指す。

A) 産学官の連携強化

ICPE2024 での建設的な議論を踏まえ、学術団体、産業界、公的機関との連携構築を図る。本取組を通じて、共同研究による技術革新の促進、設計・施工指針の社会実装の支援、さらに技術評価や認証を含む標準化の推進を図り、圧入工学ネットワークの一層の強化を目指す。次回第四回 ICPE では、持続的な協力と継続的な技術革新を実現するための枠組み整備を計画している。

B) 会員拡大に向けた取り組み

これまでの取り組みに加え、若手研究者や実務者の参加促進に引き続き力を入れる。今年度は、特に学生および若手技術者向けの会員制度を見直し、より多くのメリットを提供できるよう改善する。改善案としては、セミナーや現場見学会などの行事への参加機会の提供、重要な情報へのアクセスの向上を検討している。

また、昨年度の取り組みに対するフィードバックを踏まえ、各地域事務局を通じて、若手層の参画促進施策や法人会員の参画拡充を図る施策を進め、当学会の影響力を強化するとともに、圧入工学を通じた社会的価値のさらなる拡大に貢献する。

C) 会員間コミュニケーションと交流の強化

昨年度からの LinkedIn の活用などの取組を踏まえ、本年度は新たなデジタル交流手段の導入を強化する。これにより、特に若手および学生会員との双方向の交流と情報共有を促進し、IPA 会員間のより活発なつながりを構築する。広報委員会と連携し、LinkedIn を中心とした SNS での情報発信・交流の効果を継続的に検証・改善し、会員の参画意欲と交流の活性化を図る。

6. その他

2025 年度の初回理事会は、2025 年 7 月 3 日に東京で開催する予定である。理事会では、2025 年度の各常設委員会の活動計画や課題について協議がなされるほか、理事の中から 2025～2026 年度任期の副会長が選出されるとともに、2025 年度の常設委員会の委員長が会長により指名され、理事会にて承認される予定である。

また、本理事会にあわせて、翌 7 月 4 日に関連行事を実施し、国際圧入学会（IPA）の活動と社会的貢献への認知度の向上を図る。当会理事による都内の大学における学術講演会や、地盤工学会（JGS）の国際講演会での講演のほか、港湾空港技術研究所（PARI）との一般公開のセミナーの共催を企画している。

第 4 号議案：2025 年度予算

2025年度予算書

(2025.4.1～2026.3.31)

(単位:円)

項 目	2024年度実績	2025年度予算	備考
事業活動収支			
1 事業活動収入の部			
① 会費収入			
正会員(個人)年会費	6,460,000	6,500,000	
法人会員年会費	6,500,000	6,500,000	
② 寄付金収入			
寄付金	16,000,000	16,000,000	
③ その他収入			
研究受託費	0	0	
書籍販売	570,000	1,220,000	
国内セミナー	270,000	100,000	スポンサー費用
海外セミナー(チュニジア)	300,000	150,000	参加費、スポンサー費用
海外セミナー(インドネシア)	0	1,000,000	参加費、スポンサー費用
立替金	1,135,655	0	
雑収入	8,531	8,000	利息等
事業活動収入計	31,244,186	31,478,000	
2 事業活動支出の部			
① 会議・セミナー関係			
国内セミナー	447,705	100,000	会場費、旅費交通費
海外セミナー(チュニジア)	1,311,864	700,000	会場費、旅費交通費
海外セミナー(インドネシア)	0	1,000,000	会場費、旅費交通費
② 出版関係			
Press-in Handbook	90,407	0	
Case History Volume 2	0	0	
IPA Newsletter	157,150	200,000	執筆費用等
IPA ブックレット 4: 先端技術	0	300,000	印刷費用等
圧入専門書(日本語版)	0	3,000,000	執筆費、印刷費用等
その他	103,400	0	
③ 研究・運営関連			
理事会・常設委員会	7,632,108	5,100,000	旅費交通費
会長・事務局活動費			
会長活動費	474,510	1,000,000	旅費交通費
事務局活動費	128,083	300,000	
現地事務局活動費	128,464	600,000	
研究委員会(技術委員会)活動費	0	3,000,000	研究活動促進費
圧入仕様書	0	200,000	翻訳、編集費用等
表彰関係	161,964	0	
図書費	547,692	600,000	書籍購入費等
その他(調査・他学会参加費)	0	0	
④ 管理関連			
情報システム関連費	2,609,691	3,000,000	
郵送費(国内外)	50,644	120,000	
通信費	97,693	96,000	電話代
理事報酬	10,890,173	10,867,200	
賃借料	3,291,015	3,360,000	事務所家賃、複合機の賃借料等
契約外注費	1,641,204	1,668,204	税理士報酬等
支払手数料	219,010	300,000	銀行手数料
事務用品費	173,895	200,000	
雑費	335,084	500,000	
法人税	0	70,000	
事業活動支出計	30,491,756	36,281,404	
事業活動収支差額	752,430	-4,803,404	
前期繰越金額	14,731,269	15,483,699	
当期収支差額	752,430	-4,803,404	
次期繰越金額	15,483,699	10,680,295	

第 5 号議案：理事・監事の選任

推薦委員会^(注1)は、国際圧入学会定款 第 4 章第 12 条に基づき、2025 年度～2026 年度の任期にかかる理事 14 名・監事 1 名の計 15 名の候補者を以下のとおり推薦する。

理事候補（再任）2025 年度～2026 年度任期： (敬称略、順不同)

氏名	組織	国／地域
Kenneth Gavin	デルフト工科大学 教授	オランダ
Mounir Bouassida	チュニス・エルマナール大学 教授	チュニジア
Andrew McNamara	ロンドン大学シティ・セント・ジョージ校 上級講師	イギリス
竹村 次朗	竹村工業株式会社 技術顧問	日本
Nor Azizi Bin Yusoff	トゥン・フセイン・オン・マレーシア大学 (UTHM) 上級講師	マレーシア
Michael Doubrovsky	オデッサ国立海事大学 教授	ウクライナ
Marcos Massao Futai	サンパウロ大学 教授	ブラジル
Stuart Haigh	ケンブリッジ大学 教授	イギリス
堀越 研一	成和コンサルタント株式会社 代表取締役社長	日本
石原 行博	株式会社技研製作所 圧入技術研究開発センター センター長	日本
西岡 英俊	中央大学 教授	日本
Jignasha Panchal	A2 Advanced Monitoring エンジニアリングマネージャー	イギリス
Jianfeng Xue	ニューサウスウェールズ大学 准教授	オーストラリア
Gülin Yetginer	エクイノール ASA 社 (Equinor ASA) プロジェクト開発センター・マネージャー	ノルウェー

監事候補（再任）2025 年度～2026 年度任期：

氏名	組織	国／地域
Goh Teik Lim	アツニュー・ギケン（Atsunew Giken Pte. Ltd.） ダイレクター	シンガポール

注： 推薦委員会^(注1) は、国際圧入学会付属定款 第 4.1 条に基づき設置された。

備考：本第 5 号議案は、15 名の候補者を個別ではなく、一括して承認いただく形式です。

ご意見がありましたら、会員サイトの投票ページのコメント欄へご記入ください。